キラリ看護部

Vol.9

認知症看護について

看護師
藤本　優志

こんにちは。認知症看護認定看護師の藤本優志です。今回は認知症看護認定看護師から急性期病棟でのエピソードをご紹介します。

まず認知症看護認定看護師についてご説明します。簡単に言うと、認知症に詳しい看護師です。そして、急性期病棟での私の役割は、認知症の患者さんが入院されたときに、安心して病気の治療を受けることができるように、また、少しでも苦痛が和らぐようにお手伝いをすることです。病気により、身体的、あるいは精神的な苦痛を伴うことになりますが、それだけではなく環境が変わったことで、今、ご自分がどこで何をしているのかわからない状況になることが多くみられます。そういった際に、混乱せずに安心して病気の治療を受けることができるように環境を整えたり、お薬の提案をしたりいろいろと工夫をしてお手伝いをしています。

実際にどのようなことをしているのかをお話します。ある日、認知症のAさんが肺炎で入院してこられました。熱もあり、呼吸状態が悪く酸素マスクや点滴もしていました。入院後にAさんは、「家に帰らせてください。」「子どもが待っています。」と息を切らしながら、何度も看護師にお願いをされました。酸素マスクの意味も理解できず、続けて酸素を吸ってもらうことができませんでした。きっと、身体がしんどいのに、知らない場所で知らない顔ばかり。その上、注射や採血、痛いことも続きました。混乱されるのは当然です。看護師が、肺炎で入院していること、家族の方に連絡していることを何度説明しても同じ話を繰り返されて理解してもらうことができませんでした。何かできないかなといろいろ考えました。そして、Aさんが見える所に「肺炎で入院して治療中です。家族の方には連絡しています。」と書いた紙を貼り説明しました。Aさんはその紙を見て安心したようで「そうなんですか。入院しているんですか。」とおっしゃり、穏やかな表情になりました。私のメッセージが目に入るようになり、それからは、お薬を飲んで、呼吸が楽になるように酸素を吸ってもらうこともできるようになりました。今はお元気になられて、ご自宅で大好きなご家族と一緒に過ごされています。

今後はますます高齢者が増えてきます、それに伴って認知症の患者さんも増えています。これからも、認知症の患者さんが安心して入院生活を送ることができるようにお手伝いしていきたいと思います。

患者さんのベッドサイドにて

認知症看護認定看護師２名が勤務しています。